

2014年6月

第45号

ぱれっと



㈱北日本ベストサポート

TEL 018-883-1888

人口1億人維持の課題

政府の経済財政審問会議の下に設置された有識者調査会「選択する未来」委員会が5月13日、日本の人口の急激な減少に歯止めをかけ、50年後でも人口1億人程度の維持を目指す数値目標を掲げた中間報告書をまとめた。

政府が人口に関して明確な数値目標を打ち出すのは初めてのことで、それだけ将来の人口減による社会の歪みを予測した時の危機感の表れとも言える。

日本の人口は現在約1億2,700万人となっているが出生率が現状のまま推移すると2060年には約8,700万人まで減少し、65歳以上の高齢者が占める割合は25%から40%程度まで上昇する見通しとなっており、4分の1以上の地方自治体が消滅の危機に直面し、財政破綻のリスクに脅かされる可能性がある。

過度な人口減少は社会システムそのものに重大な影響を与え技術革新を阻み、国民生活の質の低下を招きかねないと報告書は警鐘を鳴らしている。

有識者調査会が示した数値目標は、一人の女性が生涯に産む子供の数を示す合計特殊出生率が、2012年の1.41から2030年までに2.07に上昇することを想定しているが、先進国で出生率が2に達しているのはフランスだけと言われており極めて高いハードルとなっている。

問題はこうした高い目標をどのような施策を講じて達成するかにある。

そもそも、結婚や出産は国民個々の意思によってなされるものであり、現在出生率が低水準で推移している要因を見極め、その対策をしっかりと打ち出さなくてはならない。

安心して子供を産むことができる社会環境の整備が急務といえるが、やらなければならないことが山積している。

羅列してみると1.若者の雇用を極力正社員として安定させる措置を講ずる。2.女性が安心して子育てができる環境を整備する。3.女性の社会進出の促進を支援する。4.子供の出産に対する支援・援助を拡大する。5.高学年までの学資負担を軽減する措置を講ずる。6.何よりも家庭を築く楽しさ喜びを社会全体で再確認する等々が考えられる。

これまでは「老人対策」が主流を占めていたが、「若者対策」「子供対策」「女性対策」など次の世代に対する対策が課題と言える。

また、何かの縁で先祖代々から受け継がれてきて自分の存在があること、更に、その子供も何かの縁で「その生を受ける」ことを認識したい。

その子供を必死で育て上げる「愛情」を、育てる側も育てられる側も共有できる明るい家庭を築き上げる努力をしたい。そんな家庭を築き上げるために国を挙げて支援するような仕組みづくりが求められている。



「なんと素敵な眺め」の企業

慶應義塾大学 名誉教授 村田 昭治

日々が創作 むずかしいから面白い

経営者がすさまじい勉強をし、何かのご縁でめぐり会った社員を大切にし、異なった価値観をぶつけ合ってお互い目覚め、勇気と刺激を与え合う関係を持つのが、企業活動の基本かもしれない。

価値観は各人が違うだろう。しかし激しい討論と企業のコアコンピタンスに対する情熱は、その異なった価値観をいつのまにか相乗効果と化して、独自の美しいかたちに結晶していくことだと思う。

創業の心を大事にし懸命に努力している経営者を見ると、深い分析力、構想力の底に必ず事業哲学が脈打っている。その事業哲学には、磁石のように人を惹きつける力をもっていることがうかがえる。

そんな経営者は限りない優しさと希求をもちながら、自らの企業が引き継いできた理念とノウハウに打ち込む、大木のような人物力が必要であることを教えてくれる。

失敗は磨き砂だと解して、新しい時代を切り拓いていく挑戦力もさかんだ。

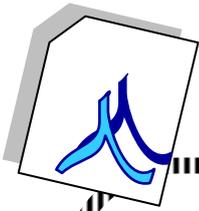
人生にもビジネスにもテキストはない。日々が創作である。だからむずかしい。が、おもしろい。

命を絶えることなく燃やして世の理解を得ようとする企業は、自然に人と市場がついてくるものだ。

わたしは仕事柄、多くの中小規模のリサーチ会社やコンサルティングを業としている人たちとお会いするが、その人たちの生業をしっかりさせているのは得意先との強い絆である。

その紐帯は生命、財産、すべてを投げ打っていく、何物にも替えがたい迫力だと思う。

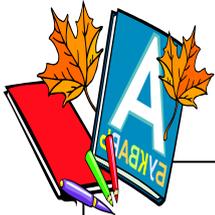
大阪、神戸、広島などよくうかがうが、関西の商法の素晴らしい点は、経営以前に人間社会だと心得ていること、いつまでもどんな困難に出会ってもやり抜くという達成主義の意義がよくわかっていることだ。



パール・バック (ノーベル賞作家)

- 1892年6月26日 米国ウエスト・バージニア州ルスボロで生まれた。生後3カ月で宣教師の父と母とともに中国江蘇省の鎮江に渡った。
英語と中国語の両国語を話すバイリンガルとして育った。バックは「生まれと祖先に関しては米国人だが、同情と感覚においては中国人だ」と語っている。
- 1911年 大学教育を受けるため米国ランドルク・マコン女子大学入学。
1914年 卒業後母の病気の知らせで宣教師として再び中国へ。
1917年 農業経済学者兼宣教師のジョン・ロッシング・バックと結婚。一時南京大学・南東大学で英文学を講義する。
- 1926年 米国コーネル大学で修士号取得。
1930年 最初の小説「東の風・西の風」を発表。
1931年 第二作「大地」大ベストセラーとなる。
1932年 ピューリッツァー賞を受ける。しかし同年ニューヨークでの講演内容が長老派の批判を浴び宣教師の地位を辞任。
1934年 中国を離れる。
1938年 「大地」の業績によってノーベル文学賞を受賞。
国際的な人種を問わない養子仲介機関であるウエルカム・ハウスや米国人とアジア人の混血の寄る辺のない子供たちを教育するパールバック財団などを設立。
- 1960年 自作「津波」のテレビ映画撮影のため来日。
1973年3月6日 死亡(享年81歳)

おすすめの BOOK



『村上海賊の娘 (上・下)』

作者 和田 竜 新潮社

今年度の「本屋大賞」に選ばれた作品。
信長の時代。信長が勢力拡大のため大阪の一向宗「石山本願寺」を攻める。兵糧攻めにあい、石山本願寺は窮地に立たされる。これを救うため瀬戸内海を拠点とする村上海賊(村上水軍)が立つ。その村上海賊の一つ能登村上家当主の娘、「景」(きょう)が主人公。
女性でいながら戦を好み、本書では織田方の水軍との激突の場面。死闘を繰り広げる。手に汗握る戦の連続。まずは見てのお楽しみ。

くらしと保険のおはなし

自動車保険の料率クラスとは？

車購入の前に料率クラスもチェック！

次に購入予定の自動車の保険料っていくらかなあと考えたことありますか？

今年は消費税の絡みで車の購入をされた人も多いと思います。車選びはとても楽しいものです。しかし、諸経費等含めるとかなりの出費になり「予算オーバーになったから自動車保険を削ってしまおう」なんてことのないようにしましょう。

大半の人は自動車保険料は少しでも安く抑えたいと考えているはずです。そこで、車選びの段階から車種によってどの位保険料が違うのか考えてみましょう。

自動車保険は車の損害率によって『料率クラス』が細分化され保険料にも差が生じてきます。「対人」「対物」「傷害」「車両」とそれぞれが1から9に分かれています。中でも車の危険度を表す「車両」料率クラスが保険料に大きく影響してきます。

例えば時速300kmもスピードが出せるスポーツカーは保険料が高く、ファミリー向けのコンパクトカーは保険料が安くなります。これは、車の新車価格と損害率、つまり事故や盗難などで保険金が支払われた実績に基づいて、1年ごとに見直しが行われているためです。

また、同じメーカーで同じ名前の車であっても型式や仕様、グレード、排気量などによって、車両料率クラスも細かく変わってきます。

1から9までの車両料率クラスの中で、1番安いのは「1」、1番高いのは「9」です。

ちなみに「1」の車の保険料比率を1とした場合、「9」の車の保険料はなんと約4倍です。年齢条件や等級によっても異なりますが、同じ条件で保険をかけているのに一方は5万円の保険料で、もう一方は20万円かかるという事は知っておいた方がよいでしょう。

これから、車を購入し、車両保険もかけようと考えている人は、お目当ての車がいったいどのクラスに属しているかディーラーに確認してみるのもよさそうです。

▼参考までに車種とそれぞれの「車両」料率クラスです。

ホンダ・フィット1300＝「3」
トヨタ・カローラスパシオ＝「2」
マツダ・ボンゴ2000 4WD GSX＝「1」
ボルシェ・911 カレラ＝「9」
スバル・レガシアウトバック＝「5」
日産・スカイライン 300GT＝「5」 GT-R＝「9」

車に特別なこだわりがなければ車両料率クラスを頭に入れて購入するのも節約につながる1つの方法だと思います。

※車両(型式別)料率クラスは損害保険料率算出機構が決定しています。機構が決定した料率クラスは各保険会社が共通で採用しており、保険会社によって料率クラスが違うということはありません。



バイマーヤンジンさん
チベット出身の音楽家

【編集後記】

5月22日当社創立15周年記念行事を開催した。

第1部は記念講演会。チベット出身のバイマーヤンジンさんが「輝いて生きる・・・夢は実現するためにある」と題して講演した。

日本人がややもすれば忘れがちになっている古くからの日本の良さ、誇りとするもの。例えば「勤勉さ」近隣に対する「思いやり」四季の移り変わりからもたらされる「繊細な情緒」などについて話され、聴衆に深い感動を与えた。

私たちには、今一度日本の本来の良さを見つめ直すいい機会を与えていただいた。

日本は私にとって「天国」、日常生活は感謝の一言に尽きると話された。